

住民のパイプ役

お知らせ広報から 読ませる広報へ

横越 稲葉 孝之(49才)

「広報よここし」百号の発行おめでとうでございます。広報についての意見を求められたので私なりの考えを申し上げたいと思います。八〇年代は地方の時代とも言われております。このことを受けて「広報よここし」も新たな変身を求められております。

記事内容だけに限りません

広報が行政上のお知らせが主なことになることは止むを得ないこととす。しかし十二月から有線放送によるお知らせが始められるので、それに肩代りする分だけ紙面にゆとりができるのではないのでしょうか。とするならば生活に密着した女性向け・郷土のお菓子の作り方、男性向け・花木の手入れの仕方など、子ども向け・部落の成立ち・歴史伝承・昔の遊びや道具・海外で活躍



している横越の人など...一例にすぎないが住民の意見を聴取し、シリーズで組むのも一方法ではなからうか。

住民の手づくりの広報であればこそ読ませる広報への道が開けるのである。

地方の時代とは住民参加の時代と言いつてもいい。

これには物心両面の裏づけと参加させる行政当局と参加する住民の興奮が要求されなければならないと考えています。私個人として、広報が配布



暮らしに役立つ記事を

小杉 小舟戸 タカ(56才)



私人の立場からと云う依頼でしたけれども、私現在生活消費推進委員会委員としておりましたが、その立場も兼て一言のべたいと思っております。色々広報によって情報提供を常に感服しております。消費生活推進と被害救済を主としている消費生活改革推進委員会を知りたられる人が幾人いるでしょうか。此の前掲協働部会の意向調査の結果を見て、全く知らないです。云ってよい方が早いので

「広報よここし」が第百号を迎えました。発刊が約十年、早いものです。第一号のトップ記事に、「昭和四十七年度一般会計予算 三億七千九百万円の超大型」という見出しがのっています。本年度当初予算約十五億、約四倍になっていくのを見ても、やはり時間の流れを痛切に感じられます。五年先は全くかわらないかといわれる時代です。やはり、一くぎりの時期ではないか。

住民と密着した ビレッジ紙に

木津 玉木 英夫(25才)



される度、興味深く拝見するコーナーでは「横越村の人口を知るのは横越村の村勢を知る術はないようか」ということには「おこりやま、およろこび」。普段、疎遠している知人達の近況を聞いて見ることが出来、ありがたく思っております。その他、月々に関する行政の情報の及び行政などの案内など...」

「広報よここし」が第百号を迎え、興味深く拝見するコーナーでは「横越村の人口を知るのは横越村の村勢を知る術はないようか」ということには「おこりやま、およろこび」。普段、疎遠している知人達の近況を聞いて見ることが出来、ありがたく思っております。その他、月々に関する行政の情報の及び行政などの案内など...」

十年一昔

教育長 田中 郁郎

総務課長 公民館合同で熱心に取り組んできた。それだけに第一号を見ても苦心のあととかがわがわが感じられます。私も「横雲橋」欄を担当し

「広報よここし」の前は「村だより」と「公民館報」の二本立てで、年四・五回程度で発行されてきました。内容も、広報紙も、それぞれの使命を十分に果たすに努め、身近に感じる存在として、その機能を発揮されるよう折って止みません。

機構改革で

広報・広聴を強化

「横雲橋」を書き続けて

公民館長 山崎 賢隆

広報よここしは、広報活動を効果的に連携させるため、村広報、広聴をすすめています。

広報よここしは、広報活動を効果的に連携させるため、村広報、広聴をすすめています。

広報表紙について

今回来表紙を保持するための表紙が配布されましたが、十二月から広報の紙面が変更されますので、この表紙は今まで発行された、広報の保存用としてご使用下さい。

広報活動の充実が住民の声に反映させたい

広報よここしは、広報活動を効果的に連携させるため、村広報、広聴をすすめています。